

令和6年5月

桜川地区区民と区長との懇談会
報告書

板橋区政策経営部広聴広報課

目次

	ページ
I 概要	1
II 区長冒頭挨拶	2
III 質問要旨及び区長回答	
1 番 茂呂町会内にある区設掲示板の増設について	3
2 番 東山町内にある公園のトイレ整備について	3
3 番 災害時における防災放送の改善について	4
4 番 東新児童遊園の再整備について	5
5 番 高齢者の活動場所の確保について	5
6 番① デジタル技術を活用した情報発信の構築支援について	6
6 番② 災害時における雑水確保対策について	7
7 番① 未整備の区施設における FreeWi-Fi の設置について	7
7 番② 上板橋体育館敷地内の水路の再整備について	8
別紙 1 板橋区 LINE 公式アカウントのご紹介	9
IV 懇談（意見交換）	
山形県尾花沢市常盤地区との相互交流事業	16
V 区からの情報提供	20
VI 区長結び挨拶	22

I 概要

1 開催日時

令和6年5月20日（月） 14:00~15:30

2 開催場所

桜川地域センター

3 出席者

住民側 38名

町会・自治会及び関係団体		37名
	発言者	9名
一般公募		0名
	発言者	0名
	傍聴者	1名

区側9名

区長、政策経営部長、危機管理部長、区民文化部長、
産業経済部長、健康生きがい部長、土木部長、
桜川地域センター所長、広聴広報課長（司会）

II 区長冒頭挨拶

日頃から区政全般にわたり、ご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。また、自治会活動などを通じて住民相互の親睦と交流を深め、地域の活性化と安心・安全なまちづくりに多大なる貢献をされておりますことに敬意を表します。

桜川地区では、3月23日に「桜川さくらまつり」が5年ぶりに開催されました。

また、7月から8月には、青健主催事業である山形県尾花沢市常盤地区との相互交流事業が予定されており、地域の特色を活かした事業が実施されていると聞いております。

今年度は、1月に策定した「いたばしNo.1実現プラン2025改訂版」の始動の年であり、未来を担う人づくりとしての「少子化対策・子育て支援の充実」、魅力あふれる元気なまちづくりとしての「加賀エリアのブランド力の強化」、安心・安全な環境づくりとしての「駅周辺の魅力あるまちづくりの推進」などにチャレンジしてまいります。

そして、「東京で一番住みたくなるまち」の新たなステージに向け、「SDGs戦略」、「デジタルトランスフォーメーション戦略」、「ブランド戦略」の3つの重点戦略の更なるバージョンアップを図ってまいります。

喫緊の課題である物価高克服及び地域活性化対策などに迅速かつ的確に取り組むとともに、「未来を担う人づくり」「魅力ある元気なまちづくり」「安心・安全な環境づくり」に取り組み、区民の皆様が誇りに思う「板橋ブランド」を創造し、次世代へつなぎ、SDGs未来都市として、持続可能な区政を実現してまいります。

今後も、「あたたかい人づくり、やさしい区政」を信条に、区民の皆様の上に寄り添った取組を進めるとともに、継承と刷新の精神で積極果敢にチャレンジしてまいりますので、引き続き、区政に対するご理解とご支援を心よりお願い申し上げます。

前回の桜川地区における懇談会は、令和元年7月であり、早いもので5年が経過しようとしています。

本日は、地域の課題はもとより、区政全般にわたる課題や、ご要望などを、直接、お伺いできる貴重な機会となりますので、これを活かした地域の課題解決、区の発展につなげてまいりたいと考えています。

短い時間となりますが、有意義な懇談会にしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

1番 茂呂町会内にある区設掲示板の増設について

茂呂町会ご質問（要旨）

板橋区が発信する情報の区民への共有手段として重要な役割を果たしているのが、各町会・自治会に設置されている掲示板である。デジタル化が進んでいる現代においても、このアナログ掲示板は未だに多くの人に活用されている貴重な情報共有手段となっている。

茂呂町会としては、この掲示板による地域住民への情報共有をさらに強化・確実にするため、町内会にある掲示板数を増設していただきたい。

区長回答

区内には 1,640 基の区設掲示板が設置されており、桜川地区においても現在 65 箇所に設置しています。区ではおおむね 180 世帯に 1 基を目安に設置しており、この目安上では桜川地区 11,137 世帯に対する設置数は 62 基となるため、新たな設置は難しいと考えております。

また、区全体でみても、平成 26 年以降掲示板の増設は行っておらず、マンション等大規模な建物が建ち、住民が増えた場合でも、マンションのロビーなど人目に付きやすい場所を活用してポスター等を掲示いただいております。今後も同様の対応をしていきたいと考えております。

しかしながら、既設の掲示板の移設については可能であり、以前にも、掲示板を私有地から歩道に移設し、設置方向を変えたことで利便性が増し、歩行者からの見やすさが向上した事例もあります。掲示物の配布枚数も相談に応じることがありますので、担当の地域振興課に連絡をいただきたいと思います。

2番 東山町内にある公園のトイレ整備について

東山町会ご質問（要旨）

東山町内には 3 つの公園があるが、いずれもトイレに問題がある。

東山公園は和式トイレで、前が狭く非常に使いづらい構造になっている。また、公園の照明が暗いうえにトイレが入口から遠い場所にあるため、日が落ちると女性や子供は怖くて入れない状況にある。

東山はたけ公園はトイレが整備されていない。要望はしているが、設置されない状況が続いている。

東山みなみ公園は男女兼用のトイレが設置されているが、和式トイレである。

すなわち、東山町内の公園には洋式トイレが一つも設置されていない状況である。快適で利用しやすいトイレの整備・改善をお願いしたい。

区長回答

東山公園のトイレブースは、洋式化するには狭いため、大便器と小便器の配置を変えるなどして、女性やお子様にも使いやすいトイレへの改修を検討したいと考えております。また、公園灯については、昨年度と今年度の 2 か年で LED 化を進めており、今年度の工事終了後、公園内で必要な明るさが確保できていない場所がないか、確認を行います。これに併せて、公園の入口からトイレへの動線上で、明るさが確保できているか、改めて確認を行い、確保できていない場合には、樹木の剪定や照明の増設などで、改善をしていきたいと考えております。

東山はたけ公園は、両脇を住宅に囲まれた公園で、平成 28 年に公園を整備した際に、元の土地所有者や近隣の方々に、トイレ設置の意向を確認したところ、住宅からトイレまでの距離が近いことから、賛同が得られなかったと聞いております。また、区の公園・公衆便所の配置計画、トイレの充足地域にあたるほか、公園面積が 826 m² と小さいこと、バリアフリー化が求められている現在の基準でトイレを建てると、1 棟あたりの建設費が高額となることから、新たにトイレを設置する考えはなく、ご要望に沿えず申し訳なく思っております。

東山みなみ公園の和式トイレは、トイレブースが広く、扉が外開きで、タイル貼りの床面であり、工事が比較的やりやすいことから、改めて構造を確認します。問題がなければ、洋式化工事を今年度中に実施していきたいと考えております。

3番 災害時における防災放送の改善について

東山町会ご質問（要旨）

防災無線からの放送では、大雨の時は雨音に消されてしまい、戸外に出ても全く聞こえない。人の声は聞き取りづらいため、声に代わる警報音等を検討するべきである。さらに、高齢者でも対応できる災害時の避難伝達方法を検討するべきである。例えば、防災無線用スピーカーの設置場所を増やす、大雨の時にもクリアに聞こえる機器に変更する、警戒レベルごとの警報音に変更する、などしたらどうだろうか。

区長回答

お問合せの防災行政無線は、区内 165 か所に設置しており、荒川や石神井川に近い場所には、モーターサイレンを発出できる機器を 12 か所に設置しております。桜川地区においては、桜川小学校に設置している防災無線が、モーターサイレン対応となっております。

ご指摘のように、豪雨時などに放送内容が聞き取れなかった場合に対応するため、区では放送内容の確認ができる「電話応答サービス」を提供しております。「電話応答サービス」は、令和元年台風第 19 号の教訓を踏まえ、回線数を 16 回線から倍増し、32 回線としております。

情報伝達手段については、様々な研究や開発が日進月歩で進められており、区民の不安軽減に資するよう、今後も新たな情報発信ツールの検討を積極的に進めていきたいと考えております。

4番 東新児童遊園の再整備について

東新町二丁目町会ご質問（要旨）

東新児童遊園にある公衆トイレが、夏季になると大変臭いがきつくなるため、改修をお願いしたい。

また、トイレの裏にある掃除用具の保管場所が、とても狭く入りきらない状況なので、あわせて改修をお願いしたい。

さらに、住民防災組織格納庫も児童遊園内にあり、一時集合場所にもなっていることから、大きな格納庫に改修してもらいたい。

区長回答

東新児童遊園のトイレについては、令和5年8月に和式便器の洋式化工事を行い、便器交換により長年付着した尿石が無くなり、また、床面のタイルを清掃しやすく臭いが付きづらいシートに変更したことから、一定程度、悪臭が抑えられたものと考えておりました。

今後、臭いを感じやすい夏に確認し、臭いが出るということであれば、柵や配管の高圧洗浄を行い、こびり付いたよごれ等をはがして、悪臭の改善を試みたいと考えております。

東新児童遊園については、「地域がつくる公園制度」により、地域の皆様に清掃を担っていただき、大変感謝申し上げますところではありますが、活動に関わる清掃等の用具の収納については、他の公園同様、地域活動に用いている休憩所を倉庫としてご活用いただきたいと思います。

住民防災格納庫の面積は、区の貸与した防災資器材を保管するため、統一基準に基づき決定しております。東新児童遊園内の格納庫もこの基準と同じ面積となっており、現在の格納庫を有効に活用いただきたいと思います。

5番 高齢者の活動場所の確保について

桜川町会ご質問（要旨）

高齢になると行動範囲が狭くなり、地域センターの集会室やウェルネススペースを利用できる高齢者は限られているのが現状である。そこで、行政職員のアイデアにより、各地域の介護施設等を、高齢者の活動場所として地域に増やしていただきたい。

区長回答

現在、「通いの場」を増やすため、桜川地域においても地域の集合住宅や高齢者福祉施設に対し、区が高齢者の活動場所の提供について随時申し入れを行い、高齢者の方々の活動場所が増えるように対応しております。

併せて、区民の方々の自主的・自発的な活動、高齢者の居場所における活動を支援する施策も拡げているところです。

例えば、10の筋力トレーニング・グループに代表される自主グループが、区の施設や介護系施設を「通いの場」として活動する場合、理学療法士等を派遣した健康講座の実施や、区民集会所の月2コマまでの無料化などの支援をしており、これらの内容を、活動場所の一つとして参考にいただければ幸いです。

この後、10の筋トシで実際に行っているプログラムの一部を、おとしより保健福祉センターの専門職から、ご紹介したいと思います。

今後は、ウェルネススペース・「通いの場」を区民の方がより利用しやすいよう、案内チラシの作成やホームページ上でのご案内などを検討していきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

6番① デジタル技術を活用した情報発信の構築支援について

桜川二丁目町会ご質問（要旨）

現状の回覧板や掲示板による情報伝達方法では、一部の住民にしか伝わらない可能性が高い。そのため、デジタル技術を活用し、町会の情報発信方法の多様化を試行したいと考えている。

具体的には、板橋区が開設している公式LINEアカウントの町会版を開設し、電子回覧板・電子掲示板の仕組みを構築したい。ついては、構築にあたって、区からのサポート支援をお願いしたい。

区長回答

区では、最新の情報を迅速に届けることができるデジタルの強みや、幅広い年齢層における高い普及率など、LINEが持つ情報発信力を区政に生かすため、令和5年7月に公式LINEアカウントを開設し、昨年度末で登録者が17,000人を超えるなど、順調に推移しております。

LINEというデジタルツールを、町会の情報発信に活用できれば、高い効果が期待できると考えますが、公式アカウントとしてきめ細かく取り組むとなると、発信する内容や、タイミング、それらを定める仕組みなどが必要になりますので、区が実際に運用している現況を後程ご紹介いたします。

区の公式アカウントは有償サービスを利用しており、導入時の検討内容や、運営にて得られたノウハウなど、参考になる部分があれば提供させていただきます。また、LINEに限らず電子回覧板・電子掲示板の仕組みづくりなど、デジタル技術の活用に関する区の支援の方向性についても今後検討して参ります。

町会版LINEアカウントの検討に際して、ご相談があれば一緒に考えたいと思いますのでよろしくお願いたします。

（以下、政策経営部長より説明）

資料1により説明させていただきます。

区では令和5年7月から板橋区LINE公式アカウントの運用を開始し、令和6年4月時点の友だち登録者数が約18,000人となっており、日々、イベントや防災等の情報を発信しております。第三

部でもチラシを入れておりますが、是非友だち登録していただければと思います。実際に情報を見る場合ですが、板橋区が情報を発信しますと、スマートフォンの待ち受け画面に通知が表示されます。こちらの通知をタップしますとLINEの画面に遷移し、画面の上の部分がメッセージで伝えたい内容が表示されます。下の部分はメニューとなり、選択すると区のホームページにつながるという仕組みとなっております。区が情報発信でこころがけていることを資料に掲載しております。メッセージは簡潔にということで、件名は28字以内、本文も60文字以内にして区ホームページへ誘導するようにしています。そして、画像を付けてイメージが伝わりやすいようにし、情報量が多くても見やすいように工夫しております。

次に、メッセージ配信作業の流れについてですが、前の週の水曜日までに各部署から広聴広報課へ翌週分のLINE配信の申請をします。セグメントと呼ばれる配信内容が曜日・時間毎に決まっておりますので、広聴広報課では申請内容を確認し、配信の準備をします。これだけの配信内容がありますので、区では自動発信できる発信管理機能を活用しております。

続きまして、LINE運用における課題についてです。一番の課題としましては、LINEの友だち登録者数についてです。板橋区の登録者数は徐々に増加しております。今回のような区民の皆さまと接する機会には、チラシなどを用いてLINEの友だち登録をお願いしております。他にも課題はありますが、整理をしながら進めております。

実際にLINEで情報を発信する場合は情報管理の体制が必要となり、押さえておきたいポイントがあります。まずは地域センターにご相談いただき、相談の内容により担当部署から適切なアドバイスができればと考えております。町会の皆さまが行う際には、一緒に課題解決に向けてご相談いただきながら区の技術を活用できればと思いますのでよろしくお願いたします。

6番② 災害時における雑水確保対策について

桜川二丁目町会ご質問（要旨）

令和6年元日に発生した能登半島地震でも顕在化した水の確保は、喫緊の課題となっている。板橋区では上下水道を耐震化工事しているとのことであるが、液状化した地域ではマンホールが地上に盛り上がる現象が見られた。板橋区でも災害が発生した際には、長期間の断水が起こるおそれがある。そこで、区の公式避難所に雑水用の井戸を設置していただきたい。

区長回答

災害時における飲料水や生活水の確保については、避難生活を送るうえで、最重要課題であると認識しているところです。

桜川地区の避難所には、地震により断水した場合でも、水を確保することができるように、耐震化が完了している「応急給水栓」を設置しております。

また、付近の消火栓から給水が可能な「スタンドパイプ」を備蓄しているほか、避難所の受水槽から生活水への活用も想定しております。

防災井戸は、水道の耐震性が脆弱な時代に、基準に適合した場合に限り設置されて参りましたが、水道管等の耐震化整備により、現在では、災害時の避難所における水源確保の見通しがついております。

一方で、避難所以外にも、都立城北中央公園内など区内の8か所に「給水ステーション」を設置しているとともに、生活水の供給等に関する協定を民間事業者と締結するなど、水を提供するための様々な体制を整えております。

区では、防災DXの視点から、令和6年度に防災支援システムの更新を予定しており、発災後、本システムを活用し、被害状況をいち早く把握したうえで、避難生活に必要な水の確保に努めて参りますのでよろしくお願いいたします。

7番① 未整備の区施設におけるFreeWi-Fiの設置について

桜川二丁目町会ご質問（要旨）

多くの区公共施設ではFreeWi-Fiが設置されているが、集会所などには整備されていない。そのため、多くの利用者が集う中でオンライン環境が利用できない状況であり不便である。区民が活用するため、未整備の区施設も含め、集会所もFreeWi-Fi環境の整備をお願いしたい。

区長回答

区では、Web会議が一般化するなど、Wi-Fiへの需要が高まっていることから、災害時の通信インフラ確保を主目的とした「ITABASHI Free Wi-Fi」に加えまして、地域センター会議室利用者用にモバイルルーターの無料貸出を開始するなど、サービスの拡大を図っているところです。

区施設の中には、立地条件や、貸出施設が地下に所在する場合など、携帯電話やモバイルルーターの電波が届きにくい場所があり、まずは今年度、そのような施設へのWi-Fi環境整備を行う予定です。

現在、桜川地域センターが管理するモバイルルーターについては、地域センター内での利用が多いことや、施設外に持ち出すことの管理上の問題から集会所利用者に対する貸出は行っていないところですが、区では全庁を上げてDXの推進を行っており、区民の皆様が利用する集会所においても、快適なデジタル環境を整備できるよう検討していきたいと考えております。

7番② 上板橋体育館敷地内の水路の再整備について

桜川二丁目町会ご質問（要旨）

以前は桜川地区管内にある上板橋体育館の敷地内の水路にも水が流れており、子どもたちは楽しく遊び、大人にとっても涼しくて憩いの場であったが、現在は水が流れていない状況である。

もう一度、年間を通じて水遊びができる憩いの場所となるように、上板橋体育館敷地内の水路を整備していただきたい。

区長回答

上板橋体育館前の水路については、東日本大震災の計画停電及び節電要請の影響により休止し、以降、水路本体の水漏れや設備系統の不具合等により、長年休止したままとなっております。

桜川の地区内では、東山公園に「こどもの池」があることから、当面、子どもの水遊びについては、こちらの施設をご利用いただきたいと思います。

なお、上板橋駅南口から都立城北中央公園を結ぶエリアについては、上板橋駅南口の再開発を契機とした連鎖的なまちづくりとして、「新たな公園都市」としてのまちづくりを考えているところであり、今回ご要望いただいた上板橋体育館わきの水路を含む桜川緑道についても、上板橋体育館の外構部分と一体となった整備を行うなど、魅力あふれる空間づくりができないか検討したいと考えております。

子どもの水遊び施設については、維持管理やコストの面から噴水やミスト等に移行していることから、この検討に併せて、桜川緑道内に、水路に代わる噴水やミスト等の整備も考えていきたいと思っております。そして、地域全体が緑の魅力ある空間になるように、大切な空間として取り扱っていきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

板橋区LINE公式アカウントのご紹介

板橋区LINE公式アカウントの概要

- 令和5年7月から運用開始。
- 友だち登録者数：約18,000人(4月時点)
- ユーザー数9,500万人と、日本で最も普及しているSNSであり、区の幅広い情報を効果的に配信できるツールとして活用。
- X（旧Twitter）、Facebook、Instagram、YouTubeなども区公式SNSとして運用中。

ぜひご登録ください！

友だち募集中

板橋区
LINE
公式アカウント

あなたの欲しい情報をお届け♪

イベント

防災

子育て

多彩なメニューから簡単に区の情報にアクセスできます

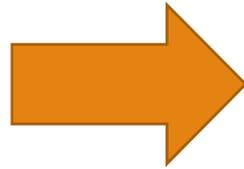
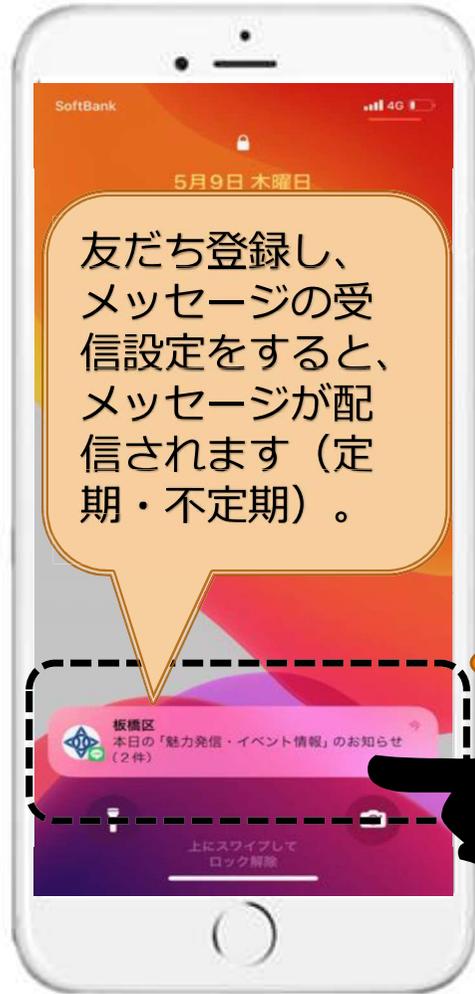
友だち追加方法

- 1 二次元コードから友だち追加
- 2 LINE アプリのホーム画面のID検索画面から「@itabashi」で検索し友だち追加

@itabashi

株式会社 板橋区広報情報推進課 03-3579-2025

板橋区LINE公式アカウント画面



タップ!



【メッセージ配信】
防災などの緊急情報や、「イベント情報」「健康・医療」など受信を希望する分野のメッセージが配信されます。

【リッチメニュー】
防災・防犯、子育て、ごみ・リサイクルなど、需要の高い情報などについて、区ホームページへのリンクを掲載しています。

情報発信で心がけていること

- 希望する分野の情報を受信できる「セグメント配信」
- 複数メッセージを同時配信できる「カルーセル配信」
- 配信はセグメントごとに原則週1回
- メッセージは簡潔に（60文字以内）、区ホームページへ誘導
- 画像付きでイメージが伝わりやすいように
- 原則1日1件以上は配信する



情報量が多くても見やすく、煩わしさを感じさせない工夫

※「セグメント配信」「カルーセル配信」は有償サービスです。

メッセージ配信作業の流れ

【流れ（広聴広報課取りまとめ）】

- ① 全部署からの翌週のLINE配信の申請を受付（週1回、毎週水曜日期限）
- ② 広聴広報課で翌週分の全申請内容の確認、担当部署との調整
- ③ 配信内容のシステム入力作業、ダブルチェック

※広聴広報課職員4人で毎週ローテーション

※緊急情報や重要情報はその都度実施

【セグメント及び配信時間一覧】

セグメント	曜日	時間
子ども（妊娠期・未就学児）	月曜日	8:30
子ども（小学生以上）	月曜日	12:00
健康・医療	火曜日	8:30
税・国保・年金	火曜日	12:00
高齢者・介護	水曜日	8:30
福祉・障がい者	水曜日	12:00
その他	水曜日	15:00
文化・スポーツ	木曜日	8:30
環境・ごみ・リサイクル	木曜日	12:00
産業・しごと	金曜日	8:30
事業者向け情報	金曜日	12:00
防災・防犯のお知らせ	金曜日	15:00
広報・報道	土曜日	12:00
魅力発信・観光情報	日曜日	12:00

LINEの運用における課題

- 友だち登録者数の増加
- 若年層の登録の増加（特に10代～20代）
- より見やすく、より魅力的な情報発信
- 行政サービスとの連携、LINEの機能を活用したイベントなど、情報発信以外の機能の充実（有償）

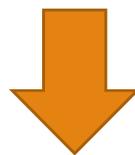


区民に最も身近で、より使いやすいSNSへ

新たにLINEで情報発信を行う場合

- 情報発信の内容や頻度について検討
- 情報発信体制や情報管理体制の検討
- 有償サービスとなる場合、費用負担の検討

※費用のかからない「フリープラン」は通数（発信件数×友だち数）制限あり



「LINEビジネスアカウント」の申請

山形県尾花沢市常盤地区との相互交流事業

活動紹介

1 山形県尾花沢市「常盤地区」とは

山形県尾花沢市常盤地区は、人口 1,537 人 562 世帯の小さな町です。尾花沢市と言えば花笠踊りが大変有名です。また、スイカの収穫量は日本一と言われています。

2 常盤地区と桜川地区の交流について

現在に至るまで、桜川地区の尾花沢林間学校の参加者は 48 年間で延べ 3,000 名です。常盤地区の御所山子供会都市体験移動教室の参加者は 42 年間で延べ 1,300 名となっております。桜川地区はバスを利用し、常盤地区は新幹線を利用して移動教室を行っております。桜川地区と常盤地区との交流は、昭和 51 年に茂呂町会に在住していた画家「石丸 弥平」氏の勧めで始まり、第 1 回尾花沢林間学校が開催されました。

その後、一方通行ではなく相互の交流を求め、昭和 57 年に桜川地区に常盤地区の子どもたち 38 名を招待し、第 1 回御所山子供会都市体験移動教室が始まりました。

3 尾花沢林間学校と御所山子供会都市体験移動教室

令和 5 年 7 月 28 日（金）から 7 月 30 日（日）に第 48 回尾花沢林間学校を実施いたしました。その時の様子について、写真を交えながら紹介します。尾花沢市に向かうバスの中でレクリエーションをして過ごしました。目的地までは約 7 時間かかります。尾花沢市に入り、初めに JA 西瓜選果場で説明を受けながら見学しました。その後、芭蕉・清風歴史資料館を見学しました。ここでは子どもたちは拓本作りを学びました。各自で手作りの拓本を持って記念撮影をしております。宿泊先である徳良湖自然研修センターでは、常盤地区の女性部の皆さんから食事のもてなしがありました。2 日目の早朝に交流事業実行委員会の会長さんの案内で徳良湖畔を散策しました。徳良湖から現地のマイクロバスで移動し、いよいよ御所山の沢下りのスタートです。市の職員の皆さんが鎖を打ち込んでくれたところ

を一步一步慎重に進んで行きます。川の中は鎖が無いので、大人が補助してゆっくり進んで行きます。各自で持ってきたお弁当を食べたあと、川遊びをして楽しみました。川遊びのあとは常盤地区の皆さんと記念撮影をしました。その後、沢からおりて山荘の前で川魚掴みを行いました。川の支流を塞いで魚を掴み、子どもたちは喜んでいました。魚掴みを終えた後は、山荘の前で、地元の子どもたちとのレクリエーションにより和気あいあいと楽しみました。夕食後は山荘前の広場でキャンプファイヤーをしました。

そして最終日は山形県で有名な銀山温泉へ行き、温泉街を散策し、楽しかった林間学校も終了となりました。

今回の林間学校の記事が、令和 5 年 8 月 1 日の山形新聞に掲載されました。

続きまして第 42 回都市体験移動教室について説明させていただきます。この移動教室は、尾花沢市林間学校から帰ってきた翌週の土曜日から月曜日にかけて実施されます。常盤地区の小学 5・6 年生の子どもたちが参加しております。尾花沢市の子どもたちは新幹線を利用して上京しますので、東京駅までお迎えに行きました。東京駅からはバスに乗り、まず上野の国立科学博物館へ行きました。見学を終えると、宿泊先でもある桜川地域センターへ向かいます。桜川地域センターでは、桜川地区の女性部の皆さんが子どもたちを出迎え、開校式が行われました。開校式には尾花沢林間学校に参加した子どもたちや引率者も出席しました。開校式では、御所山子供会を代表して 6 年生が立派な挨拶をしました。そのあと、尾花沢林間学校の参加者が楽しい思い出と感謝の言葉を綴った寄せ書きを贈呈し、記念撮影をしました。

開校式が終わると、御所山子供会の皆さんは女性部の皆さんが作ったお弁当を持っていたばし花火大会に向かいます。蓮根駅近くでバスを降り、混んでいる道をはぐれないようにして会場へ向かいます。さあよいよ花火大会が始まります。ドーンとお腹まで響く花火の音にみんな感動したと思います。花火のあとは急いで戻って銭湯へ行き、さっぱりして一日目を終えました。

翌朝はセンターのロビーで目覚めのラジオ体操

をしました。桜川地区のスポーツ推進員や町会長の皆さんも一緒に行いました。2日目はお待ちかねの東京ディズニーランドで思いっきり遊びます。お土産もたくさん買ってみんな満足している様子でした。

桜川地域センターに戻ってきたら、尾花沢林間学校に参加した子どもたちとジュニアリーダーが加わり、夕食のカレーを一緒に食べました。デザートフルーツポンチはジュニアリーダーが作りました。夕食後はロビーで楽しい交流会のスタートです。輪くぐりゲームなどたくさんのゲームで楽しみました。御所山子供会の子もたちが尾花沢市伝統の花笠音頭を披露してくれました。みんなとても上手でした。子どもたちが帰宅消灯したあとは大人同士の交流会が始まります。子供会の会長さんや桜川地区の役員の皆さんと、これまでの楽しい思い出や苦労話に花を咲かせました。

最終日の朝は女性部の皆さんが心のこもった朝食を作っておもてなしをしてくれました。閉校式を終え、2泊3日もあつという間の別れの時となりました。「また来年も待っているからね」とみんなでお見送りをしました。子供会の子もたちは最後の都市体験先として東京スカイツリーを見学しました。展望デッキから見るまちはまるでミニチュアのように、記念写真をたくさん撮ったことでしょう。

帰りは上野駅から新幹線に乗ります。ここで本当にお別れです。「気を付けてね」、「またね」とお見送りをして都市体験移動教室を無事に終えました。ここまでが都市移動教室についての説明です。

4 相互交流事業における課題・今後の見通し

尾花沢林間学校の参加者数は年々減少傾向にあります。特に新型コロナウイルス感染症の流行を境に急激に減少し、50周年を目前に継続の危機となっています。

また、御所山子供会都市体験移動教室の参加者数と施設入場料の相関性は、近年の物価高騰による施設入場料の値上げに伴い、参加者が少なくても以前と同様の費用がかかっている状態です。

5 交流事業継続にあたっての要望・意見

①小中学生への参加者募集方法について

尾花沢林間学校実施にあたり、現在は紙面で募集チラシを作成したうえで各校に依頼し、担任の先生から生徒に配布してもらっております。これをタイムリーに小中学校の子どもたちに広く案内するため、一人一台端末を利用してデータで送りたいと考えています。これはコスト削減にもつながると思います。さらに、尾花沢市やキャンプの活動をよりリアルに伝えるために写真や動画を活用したいと考えています。

②尾花沢市と記念事業への区長の出席依頼について

令和7年度は、尾花沢林間学校が始まって50周年を迎える記念の年であり、9月か10月に尾花沢市との記念事業を予定しています。日程が決まり次第、区長室を通じて依頼するので、記念事業に是非とも区長のご臨席をお願いいたします。

③いたばし花火大会有料席への無料招待について

いたばし花火大会に、毎年必ず尾花沢市の方達を招待しています。昨年から座席料金が値上がりし、予算を圧迫しているため、有料席に無料で招待していただきたいと考えております。

④いたばし花火大会実施の間、舟渡小学校へのバス駐車について

花火大会には蓮根駅付近まで観光バスで移動してから歩いて花火会場へ向かっていますが、トイレに行けず困ったと言う意見がありました。帰りも混雑する中、蓮根駅付近まで歩いて戻るため、迷子や熱中症にならないか不安に感じました。花火大会実施の間、バスを舟渡小学校に駐車させてもらえないでしょうか。

⑤板橋区観光名所の無料招待および館内案内について

桜川滞在中に都内観光巡りを実施していますが、その期間中に区内巡りも実施したいと考えています。板橋区には、観光名所である熱帯環境植物館や教育科学館、美術館などの魅力ある施設があります。御所山子供会の子もたちにも板橋区について知ってもらい、板橋を楽しい思い出にしてほしいので、

無料招待していただき、館内のご案内もお願いしたいと思っております。

⑥子どもたちへのお土産として、りんりんグッズ等の寄付について

尾花沢市の子どもたちが帰る際に渡すお土産として、りんりんちゃんグッズ等の区オリジナルグッズを無料で提供していただけたらうれしいです。

色々とお願ひしましたが、子どもたちのために今後も活動したいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

区民文化部 要望に対する回答

タブレットによる小中学生への参加者募集方法について回答させていただきます。

現在、区教育委員会では、政府のGIGAスクール構想に基づき区立小・中学校に在籍する児童・生徒一人ひとりにChromebook（クロームブック）と呼ばれるパソコンを貸与しております。パソコンを使って、青健事業の活動内容などを写真や動画でお知らせすることは、大変、効果的なPR方法であると思うので、教育委員会と協議をしたいと考えております。

続きまして、尾花沢市と記念事業への区長の出席依頼について回答させていただきます。

尾花沢林間学校が来年50周年を迎えるにあたり、誠におめでとうございます。半世紀に渡って交流事業を継続するには、これまで大変なご苦労があったことだと思います。平成27年に実施いたしました40周年記念行事の際は、区長も新幹線でかけつけ1泊2日の日程で参加させていただきました。50周年記念行事につきましては、日程の都合が合えば出席させていただきたいと考えておりますので、日程が決定しましたら、桜川地域センターまでご連絡いただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

産業経済部長 要望に対する回答

いたばし花火大会有料席への無料招待について回答させていただきます。板橋区の一イベントである花火大会に、交流自治体の方々をご招待いた

き、夏の思い出づくりにご協力ができていることが、大変嬉しく、感謝申し上げます。

ご指摘のとおり、花火大会の有料席については設営資材や警備等の人件費が高騰していることにより、大会存続のため値上げをさせていただいているため、支部の負担が増えていることは認識しております。しかしながら花火大会は、企業や団体からの資金や協力により結成された実行委員会形式で運営されているため、無料で招待することは難しいですが、ご来場いただいた際は、素晴らしい夏の思い出となるような花火大会を実施いたしますので、引き続きのご理解をお願いいたします。

続きまして、いたばし花火大会実施の間、舟渡小学校へのバス駐車について回答させていただきます。蓮根駅付近から徒歩での会場入りにご協力いただきましてありがとうございます。

舟渡小学校に設置している臨時駐車場につきましては、区が招待する自治体や国際交流関係者用に使用しており、スペースが限られていることに加え、大型バスの出入りは非常に困難となっております。今まで通り、車両が進入できるところで降車をお願いし、花火大会を楽しんでいただくようお願い申し上げます。

次に板橋区観光名所の無料招待および館内案内について回答させていただきます。

魅力的な観光スポットとして、区の各施設をご案内いただくことは大変ありがたく、皆様のご来場を喜んでお受けしたいと思っております。入館料や館内の案内対応については、免除の基準や人員体制が施設ごとで異なるため、ご来場の人数や日時などについて各施設に直接ご相談いただき、可能な限り対応したいと考えております。また、施設以外として、観光ボランティアによる区の史跡等の案内もあるので、そちらのほうも是非ご活用ください。

最後に、子どもたちへのお土産として、りんりんちゃんグッズ等の寄付について回答させていただきます。

板橋区観光協会で作成しているりんりんちゃんグッズを、子どもたちに提供するなどご活用を検討いただき、感謝申し上げます。板橋区観光協会にとって、りんりんちゃんグッズの販売による収入は大変貴重であり、グッズを毎年無料で提供することは

難しいですが、周年など節目の際にはご協力させていただきたいので、是非ご相談いただきたいと思いますと考えております。

区長総括

桜川地区の皆さまにおかれましては、日頃より板橋区政にご理解・ご協力をいただき、感謝申し上げます。また、今日は「山形県尾花沢市常盤地区との相互交流事業」の大変有意義な活動について発表いただき、ありがとうございました。青健実行委員会、青少年委員の皆さまにはジュニアリーダーの育成や青健事業などたくさんありますが、色々な面で学校や町会と連携していただき誠にありがとうございます。交流事業が50年を迎えるということですが、おそらく3世代を越える交流となっており、他にはない大変貴重な交流であると思いました。

都心を離れ、普段できないような様々な体験を自然の中で経験することは、子どもたちにとって大変貴重な経験です。自然や人に対し、思いやる心を養うことはもちろんのこと、自主性や社会性、協調性など、子どもたちが生きていく上での大切な基礎となるさまざまな能力を育てることができる体験活動を、まさに実践している地域であると感じました。

さらに、桜川地区の場合は野外活動に行くだけでなく、尾花沢市常盤地区の子どもたちを受け入れるという相互交流も実践されており、お互いの地域や文化、歴史、観光資源などに触れ、交流を一層深めております。今回いただきましたご指摘事項を課題としまして、板橋区の観光事業をさらに発展させていきたいと思っております。

それから、新型コロナウイルス感染症が猛威をふるっていた令和2年からの3年間は様々な青健活動が制限されておりました。「青少年の自立と社会性を育むために、地域行事や自然体験、ボランティア活動など、青少年が地域社会の一員として積極的に参画できる体験の機会の充実を図る」ことが、「青少年健全育成強調期間地域活動方針」でも謳われております。桜川地区の皆さんは、すでに素晴らしい活動を続けておられますが、引き続き実践いただくようお願いいたします。

また、山形県尾花沢市とは、令和3年11月に「災

害時における相互援助に関する協定」を締結しております。この協定は8県13自治体間で締結している協定でありまして、災害発生時に自治体間の協力による応急対策や復旧対策の円滑化などを目的としているところです。このような協定を締結できるのも、地域間の交流があってこそだと認識して感謝しております。

結びになりますが、これからの桜川地区の皆さまと先方の地区との交流が長く続き、益々のご発展とご活躍を期待しております。来年度は尾花沢林間学校が50周年を迎えるということで、さらにその先まで交流の輪が続くことを切に願っております。50周年事業につきましても、都合がつけば参加したいと思っておりますのでよろしく願いいたします。詳しい説明とこれまでの活動に対しまして、感謝を込めてお礼とさせていただきます。

桜川地区区民と区長との懇談会 区からの情報提供

1 東京都・板橋区合同総合防災訓練

近年の大規模な災害を教訓とした対応策の検証や首都直下地震など、将来発生しうる災害への備えは全国的に必要性が高まっています。リアルな体験から危機管理意識を高めるために、8月30日から9月1日にかけて、東京都や消防、警察、自衛隊といった関係機関、近隣住民を含めた実践的訓練により、有事の手順の確認や課題の検討、各機関の連携強化や自助・共助に基づく地域防災力の向上を図っていきます。

桜川地区においては、8月31日は桜川中学校、9月1日には城北中央公園・桜川小学校にて、行われる予定です。ご協力のほどよろしくお願いいたします。



2 熱中症予防のために

熱中症とは、身体が暑さに対して適応できず、体の中の水分や塩分のバランスが崩れることにより起こる病気です。高温多湿で、風が弱かったり、日差しが強かったりすると熱中症が発生しやすくなります。気温などの環境条件だけでなく、日ごろの体調や暑さに対する慣れなども影響します。

適切な予防法を知り、早めに対処することで重篤化を防ぐことができますので、暑さを避け、こまめな水分補給と体調管理により熱中症を予防しましょう。

区では61か所の一時休憩所を開設しておりますが、「特別警戒アラート」が発出された際は、区ではクーリングシェルターとして開設いたします。



熱中症予防リーフレット



熱中症対策 一時休憩所
案内のぼり旗

3 令和5年7月1日に板橋区LINE公式アカウントを開設しました。

LINE公式アカウントでは、防災、子育て、ごみ・リサイクルなどの暮らしに関する情報や、イベント情報のほか、受け取りたい情報をカテゴリー別に選択することができます。また、メニューからは、区ウェブサイトへ手軽にアクセスすることができます。

便利な機能がたくさんありますので、ぜひ友だち追加してご利用ください。

登録方法1

右の二次元コードから友だち追加

登録方法2

LINEアプリのホーム画面のID検索画面から「@itabashi」と検索し、友だち追加



4 こんなトラブル相談増えています！安価な不用品回収サービスのはずが高額請求に

○相談事例

「2トントラック詰め放題」とのインターネット広告を見て事業者に不用品回収を頼んだところ、作業当日に「不用品を載せることができるのは荷台の高さ（20～30cmまでだ）」と言われた。詰め放題ではなかったので回収を断ると、「キャンセル料15,000円を支払え」と言われ、しかたなく支払った。

○消費者センターからのアドバイス

- 区から一般廃棄物処理業の許可を受けず、回収する業者へ依頼することは避け、事前に見積もりを取り、作業内容や料金を明確に出してもらいましょう。
- 廃棄物として処理する場合は、「板橋区粗大ごみ受付センター」や「家電リサイクルセンター」へ申し込むなど、区のルールに従い、適正に処理するようにお願いいたします。



5 消費者トラブルひとりで悩まずすぐ相談 消費者トラブルホットライン 188

○188「いやや」消費者ホットライン

様々な消費者トラブルに巻き込まれたら悩まず消費者ホットラインに相談してください。消費者ホットラインは地方公共団体が設置している身近な生活相談窓口におつながります。

○板橋区消費者センター公式X（旧Twitter）のご案内

板橋区消費者センターは、消費者トラブル情報など暮らしに役立つ情報をX（旧Twitter）でタイムリーに発信しています。

Xに登録していなくても、チラシの「二次元コード」または「URL」から情報をご覧いただけますのでご利用ください。



VI 区長結び挨拶

本日は、限られた時間ではございましたが、貴重なご意見等をいただきまして誠にありがとうございました。

本日の懇談会では、公園のトイレ整備に関することや、デジタル技術を活用した情報発信の構築支援、相互交流事業に関する事など、テーマが多岐にわたり、地域の皆様の関心の高さを感じる機会となりました。

皆様からいただいたご意見・ご要望につきましては、できることは速やかに実行に移し、検討・調整を要するものについても、十分に検討し、よりよい区政の実現に向けて取り組んでまいりますので、今後とも、ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

また、安心・安全で快適な地域づくりのためには、地域コミュニティを活性化し、より発展させていく必要があることを、強く感じております。

そのため、日頃より、地域にて活発に活動されております皆様方のお力添えをいただきながら、地域課題をともに考え、問題解決に向けて、ともに取り組んでまいりたいと存じますので、引き続きのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びにあたり、桜川地区の益々のご発展と、本日お集まりいただきました皆様の、益々のご健勝、ご活躍を祈念いたしまして、お礼のご挨拶に代えさせていただきます。本日は、誠にありがとうございました。